

厚生福祉

2011年(平成23年)11月15日(火)

第5859号 (購読料金 月額税込み4,300円)

時事通信社

◇昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 ◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 ◇発行所 東京都中央区銀座5丁目15番8号時事通信社
 ◇郵便番号104-8178
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com
 ©時事通信社2011

目次

12年度介護報酬改定の焦点⑥ サービス付き高齢者住宅は「切り札」となるのか	2
学会・医療情報—がん細胞、光で「爆破」ほか	8
進言(愛媛県)	9
生活保護、過去最多205万人 7月、不況や高齢化で一厚労省	10
インタビュー—ルーム(埼玉県)	11
低所得高齢者は半額以下に ほか	12
国・地方の負担割合「1対1」で 子ども向け手当、特例交付金は廃止—厚労省	14
外国人看護師向けに問題集	14
大臣会見	15
事件・事故・裁判	16
4年間で6%を再生可能エネに エネルギー構想まとめる—神奈川県	17
EV充電サービスの新会社	17
ニュースフラッシュ	
福祉・健康—消防団員にも「育休」制度 ほか	18
医療・保健—女性医師が子宮頸がん検診 ほか	19
環境・ゴミ—温泉施設に太陽光発電パネル ほか	19
労働・女性—一人親家庭の在宅就業支援	20

「次です」

テレビのスイッチをつける。ニュースをやっている。自分の子供を折檻(せつかん)して死なせてしまった事件を伝える興奮したアナウンサーの声。ある程度の情報が語られると、「次です」と次のニュースに移る。

ニュースキャスターとコメンテーターが官僚の宿舎が豪華過ぎると口角泡を飛ばして非難する。暫くして、「次です」と一転、グルメ店の紹介になる。毎日のように、このように番組が流される。私たちの感情は普通、悲しみであれ、怒りであれ、暫くはその思いが継続し、ある程度の時間が過ぎて初めてそれなりの整理をして納まってしまうのだと思う。毎日、このように感情を整理する

社会福祉法人新生活会
 名誉理事 長・石原美智子



暇もなく情報が流されると、人間はどのような精神状態になるのだろうかといつも考えてしまう。私たちの年齢(後期高齢者に近づいている)だと、幼少期には全くこのような環境の中にいなかったが、今の時代に生まれ育っている人たちはどのようなだろう。

何でこんなことを考えるようになったかという点、私たち高齢者介護を生業(なりわい)にしている者にとって、猫の目の様に変わる制度に振り回されている現実の中で、一体何を土台にしていっただらいいのかが見えなくなるからである。

老人を抱え込むと集中減算をしたと思つたら、地域独占と言つたり、現場にとっては矛盾だらけ

の制度の中で物事の本質を理解する暇がなくなる。人間は制度の方ばかりを見るようになる。本来、利用者の方を見るべきなのに。

学校でも、学会でも、研修会でも、専門誌上でも、そして当然、監査基準でも、あるべき論は至る所で正しい方向性を示す。

しかし現実には、次の制度はどう変わるのだろうか。制度の方ばかりを見てみると、現実とあるべき姿との開きは大きくなるばかりである。

「次です」と、前後の脈絡のないことが何ら不思議もなく流れていくことに慣れると、物事を深めていく力や物事の本質を見抜く力が弱くなるに違いない。財源も人手も少なくなる時代に向けて、今こそ私たちは知恵を必要とするのに、物事がしつかりと土台の上に積みあがらないとしたら、どんな社会を描けばいいのだろうか。